

講義資料の配付方法などについて

この講義の配付資料は OCW-i ではなく T2SCHOLA 経由で行います。T2SCHOLA は Moodle というオープンソースの e ラーニングシステムに少しだけ手を加えたものです。Moodle は日本国内でも大学によっては 10 年以上前から活用されているシステムで、Web 上に資料もありますので、東工大のサイトの説明だけで不十分な時には外部サイトを参照にするとよいかと思います。なお、学内向けの操作ガイドは <https://www.citl.titech.ac.jp/resource/t2schola-user-guide/> よりリンクがあります（がリンク先が学外サイトとなるのは組織としては考え物だ）。

T2SCHOLA へアクセスするには m.titech アカウントを所有している必要があります。
<https://t2schola.titech.ac.jp/>

にアクセスすると東工大ポータルへのログインを要求されますので（ポータルにログインしている場合には要求されない）、ポータルにログインすると T2SCHOLA の初期画面が開きます。

授業登録している科目については、そのまま見ることが出来ます（ただし、反映されるのは授業登録した翌日以降になります。）。授業登録していない科目は出てきませんが、その科目の担当教員に依頼すれば、担当教員の裁量で見られるようにすることが出来ます（OCW-i では教員に招待権限はないのでこの操作はできませんでした）。

さて、この授業では資料の配付、小テストに T2SCHOLA を使います。ですから、必ず T2SCHOLA にログインするようにしてください。なお、T2SCHOLA は、i-os またはアンドロイド端末（スマートフォンですね）からも、専用アプリでログインできるそうです。ノートパソコンの画面で ZOOM 授業を見ている場合にはスマートフォンで T2SCHOLA に接続するのも有りかもしれませんが、個人的には、場所とお金の許す限り大きめのモニターを買ってノートパソコンに接続したりして（2 画面以上）、コンピュータ系から接続することをお勧めします。

この授業は固体物理(格子系)と光学に続くものです。それらの授業を履修してくれていた方がありがたいですが、経験的には履修していても内容を理解しているとは限らないので、これらの授業を受講していなくても基本的に問題はありません（が、材料量子力学がそれに相当する科目は受講していて欲しいです。ここまで受講していないとさすがに苦しいです。）。講義内容は OCW の各回の表題を見て頂ければだいたい分ると思いますが、誘電的性質、光学的性質などを主に扱います。用いる教科書は普通の固体物理入門ですが、授業中には有機物に特有の話も混ぜています。有機物の光電子応用については同じ 3Q の有機機能材料物理（集中講義（10 月 7 日、28 日、11 月 11 日、18 日午後））もあり、こ

ちらは企業の方や他の大学の先生も話をされるので、併せて受講することをお勧めします。(なお、石川は、こちらの授業の初回で有機光電子材料研究の歴史的な流れの話をする予定で、その部分はこの授業とも関係するので、それだけでも聞いて頂けるとありがたいです。ZOOMのURLは同じ予定です。)

昨年までの授業では、受講者が多くはないこともあり、毎回授業の初めに前回の内容に関する小テストを行い、その間に前回の小テスト(採点コメント付)をお戻しするようにしていました。今回は遠隔になるので、紙でのやり取りではなくなるのですが、同じようなことが出来たらと思っています。実は、前期の2年次の授業でも課題にコメントつけて戻そうとしていたのですが、コンピュータ上でのコメント作業が予想以上の時間がかかり、また枚数も多くて授業準備が回らなくなるため断念しました。Moodleを使うと、コメント作業が、より楽になる可能性があるようで、それもこの授業でT2SCHOLAを使うと考えた理由の一つです。(やってみて、回らなくなったら、ごめんなさいになるかもしれません。)

この授業、本当は対面で学生さんの顔から理解しているかを判断しながら、必要な所には余計に時間を配分しながら行いたいのですが、遠隔では皆さんが理解しているかはこちらからは判断出来ません。ですから、チャット、音声のどちらでも、質問したり悲鳴(早すぎるといった)を上げるように御願います。授業中に質問も悲鳴も上げずに、授業評価の感想で「早くて理解できなかった」などと記しても、理解できなかったところが理解できるようになるわけではありません。

大学からは、授業の映像をストリーミング再生するようにとのお達しがありました。誰が言ったのかは知りませんが、生配信と録画配信の区別もついていない人の意見だなあという感想しか抱きませんでした。生配信の最大の利点はその場で講義をとめて質問したり、議論ができることです。講義後のストリーミング再生ではそれは出来ません。一方、生配信だと録画などと違って編集作業や取直しが出来ないのです。どうしても、録画に比べて説明などが不十分になる部分が生じます。やる側の授業スタイルが根本的に違っているのです。ですので、この授業をストリーミング再生することは止めはしませんが、それより生の時間で集中して参加することをお勧めします。

この授業のオフィスアワーはとりあえず、授業後昼休みを考えています。授業の終了をお伝えした後も、だらだらと関係するのかもしれないのかといった話をしていると思いますので、適宜質問なりで突っ込んでください。ただ、午後にリアル実験の人は昼休みは通学になってしまうので、それらの方の希望があれば、別の時間に、改めてオフィスアワーの設定は致します(その時はメール当で皆さんにも改めてお伝えするようにします。)